

資材高騰 生産者守る

ぎふ潮流

2023

―燃料費や農業資材などの
価格高騰の影響は。

「急激な円安、ロシアのウ
クライナ侵攻による物価高や
エネルギー資源高は、農業者
にとっても大きな問題。農林
水産省が昨年12月に公表した
最新の農業物価指数を見て
も、昨年は農業生産資材価格
の大幅な上昇が続いた。農産
物価格指数は落ち着いてお
り、生産者が生産資材価格の
高騰分を負担している状況
だ」

―生産者を支援する取り
組みは。

「国が肥料価格高騰対策事
業を創設し、岐阜県では本会
が事務局を務める県農業再生
協議会が事業実施主体とな
り、補助金の申請受付・審査
を行っている。また、昨年7
月に県JAグループによる支
援要領をつくり、生産資材購
入に伴う運転資金の融資につ
いて、JA岐阜信連などが利
子補給を行う制度の運用を開

6 JA岐阜中央会長 櫻井宏氏



適切な価格形成へ理解を醸成

始したが、既に5億円以上の
申請がある」
―食料の安定供給を図るた
めには。

「昨年は食料安全保障の問題
が吹き出した。食料供給の
過度な輸入依存が招いたとも
言える。県JAグループは『地
産地消』の取り組みを通じて
地域の食と農を支え、食料自
給率の向上に貢献したい。需
要に合った生産に取り組み、
持続可能な農業を実現した
い。キーワードは再生産が可

能な価格形成だ。流通業者や
消費者らに対して適切な価格
形成に関する理解醸成を図っ
ていく必要がある。サプライ
チェーン（供給網）全体の課
題として実現するための方法
を議論することも重要になっ
てくる」

―飛騨牛の輸出状況は。
「飛騨牛は香港や台湾をは
じめ、欧米向けに輸出してお
り、2021年度の輸出量は
約90トと過去最高になった。
外食需要が回復したことに加

え、オンラインを活用した各
事業者の売り込みなどが効果
を發揮したと思う。ただ飼料
の価格高騰もあり、コストの
上昇分を吸収しきれしてい
ない」

―JAの組織改革で注力し
ていくことは。
「支店・事業所などの再編
や経済事業の収支改善などに
取り組み、一定程度の改善は

進んだが、今後も自己改革を
支える経営基盤強化を進める
必要がある。世の中の価値観
が大きく変化する中で、時代
の変化に適応していかなけれ
ばJAグループも生き残れな
い。変化に対応できる人材の
育成も必要だ。JAの自己改
革の実践支援に取り組み、三
つの重点機能（代表機能、総
合調整機能、経営相談機能）
を發揮して、JAグループの
リーダーとしての使命を果た
していきたい」

櫻井 宏（さくらい・ひろし）
ぎふ農業協同組合（JAぎふ、岐阜市）代表
理事会長。2015年から
JA岐阜中央会会長。JA
岐阜信連の経営管理委員会
会長なども務める。